

日本指圧専門学校同窓会



会報

第4号

発行年月日 昭和60年3月31日
発行者 山内貞四郎
編集者 小林 秋朝
日本指圧専門学校同窓会
東京都文京区小石川2-15-6
〒112 TEL 03-813-7354
題字 山内貞四郎

同窓会通常総会で祝辞を述べられる
浪越徳治郎先生・59年4月22日



ご挨拶



同窓会々長

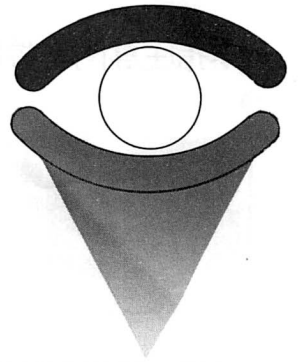
山内貞四郎

昭和五十九年度四月の総会には、多数の会員のご出席を得て、同窓会総会が茗溪会館において盛大に行われ、役員改選、終身会費及び運営資金の問題、新年度の事業計画などの重要問題が、それぞれ討議の結果、左記の内容のように、満場一致で議決されました。いろいろご協議くださった各期を代表される先生方や、当日ご出席下さった先生方に対し、心から厚くお礼申しあげます。

役員改選につきましては、不慣れなわれわれ役員を満場一致で全員再選の決議をしていただき大変恐縮している次第ですが、再選されました以上は会員皆さまの意志を吸んで、会の発展のために一同力をあわせて、及ばずながら微力を尽す所存でございます。同窓会運営資金の問題は、四年ほど前に一度取りあげられたことがありますが、最近のような諸物価高騰では運営費の問題を避けて通ることができない状態に迫られました。加えて折も折、学校当局に伺いますと、今後入学者数は認可定員が変らない限り、毎年百二十名を越えることはないという事です。即ち終身会費納入額は以

前と比較いたしますと、大変少ない額になつてしまつております。従つてこの問題をこのままにしておいては、同窓会運営に重大な影響を及ぼす問題だけに、役員会を度々開き、運営委員会の先生方とも相談を重ねた結果、別掲のような終身会費増額と新たに同窓会運営賛助金制度（希望者による毎年一口千円以上の寄付金）の導入を提案し、満場一致で可決していただきました。この制度が会員皆さまのご協力により実行していただければ、運営資金はおそらく確保されると思ひますので、会の目的に沿つた同窓会の運営が期待できると思考するものであります。

昭和五十九年度の事業につきましては、運営資金調整の関係もありましたので、一応小規模にし、松本忠久先生の講演（指圧師のための臨床心理）、会員名簿の訂正今回は会報に記載の予定）、母校体育祭の後援、会報の発行などでありましたが、これらも異議なく承認していただきましたので、小規模ながら内容の充実したものと心がけております。最後に役員人事のごさいます。監査の幸村善雄先生は健康管理の立場から、幹事長の相澤金雄先生は遠路等の事情から再任を辞退されましたのでやむなく静養していただくことといたしました。お二人とも長年にわたり同窓会発展のためにご尽力賜りましてありがとうございます。今後ともご指導とご協力お願いいたします。なを新役員として別掲の通りの諸先生が、それぞれ就任いたしましたのでお知らせ致します。



視 点

日本指圧専門学校 同窓会協賛金の

お願い

●同窓会々長 山内貞四郎
●会計委員 青木 宏

昭和五九年度総会(四月二二日実施)において、同窓会終身会費の値上げが左記の通り決定しました。

二八期生(五九年入学) 八、〇〇〇円
二九期生(六〇年入学) より

一〇、〇〇〇円

値上げの背景には、現行の五、〇〇〇円が長期に亘り据え置かれてきたこと、その間の諸物価の高騰、また、五六年度には会員名簿の発行、同年度より会報の発行を開始するなど同窓会事業の充実により、財源が底をついてきた等々の状況があります。

さらに事態を深刻化させる要素として、今後新入会員が大巾に減少することを考慮しなければなりません。

同窓会の収入源は、新卒生から徴集する終身会費にその殆んどを依存しています。肝心の卒業生数が減少することは、即収入減に繋がる訳で、これから益々発展していかなければならない同窓会にとって憂慮すべき事態といわなければなりません。

この差し迫った問題をどう解決していくべきか昨年四月一日、各期の代表者によって構成されている運営委員会で熱心に討議され、会員の皆様に協賛金という名目で資金カンパの協力を呼びかけることが決定しました。

この協賛金は永続的に窓口を設け、会員の皆さんのご都合の良い時にいつでも納入することが出来るようにすること。一口、千円とし、何口でも納めることが出来る。すなわちこの協賛金は強制的なものではなく、母校に対する恩返しと、母校の発展をバックアップし、同窓会の運営と事業の拡充のために、自発的に協力するという精神からのものであること。会報発行時と、總會等の会合の都度呼びかけていくこと等が強調されました。

ここに会員の皆様のご理解と積極的なご協力を、切にお願い申し上げます。

同窓会協賛金納入要領

払込先 郵便振替 東京2-21348

日本指圧専門学校同窓会

(同封の払込票をご利用下さい)

一口 金一、〇〇〇円 何口でも可

領収書 氏名、金額を会報に発表することによって替えさせていただきます。

受付期間 年間を通じていつでも可

以上

日本指圧専門学校

同窓会新役員紹介

(敬称略順不同)

名誉会長 浪越徳治郎
名誉顧問 川上春治
相談役 井沢 正
" 浪越 徹
" " 山内貞四郎
" " 吉田克廣
" " 石垣惟一
" " 藤井正弘
" " 小出忠志
" " 片岡弘昌
" " 藤井正弘
" " 上野欣二
" " 青木 宏
" " 浜中喜美子
" " 浪越満都子
" " 木下 誠
" " 上野欣二
" " 小林秋朝
" " 山田明信
" " 山口忠治
" " 小川 清

幹事 名簿作製委員長) 上野欣二
" (会報編集委員長) 小林秋朝
" (会則諮問委員長) 山田明信
副幹事長 上野欣二
副幹事長 藤井正弘
副幹事長 藤井正弘
副幹事長 小出忠志
副幹事長 片岡弘昌
副幹事長 藤井正弘
副幹事長 上野欣二
副幹事長 青木 宏
副幹事長 浜中喜美子
副幹事長 浪越満都子
副幹事長 木下 誠
副幹事長 上野欣二
副幹事長 小林秋朝
副幹事長 山田明信
副幹事長 山口忠治
副幹事長 小川 清

新運営委員紹介
〔学院〕定祐寅一(1期) 吉田克廣、持木光子、(2期) 上平雅久(3期) 青木雅美、稲場啓護(4期) 杉野隼太、春日井力、(5期) 吉野文雄、菊地幸平(6期) 梅津新之助、植松鎮郎(7期) 広村貞雄、杉山

同期会便りご利用について

同期会便り覧は同期生の交流の場であり、同期会、クラス会等親睦の集りの記事をお寄せ下さい。合同写真掲載(次号)ご希望の会は原稿と共に一枚同封して下さい。同窓への交信の場として有効にご活用頂けるよう、運営委員、同期役員、クラス幹事の方々お願い致します。その他、題自由、会報用原稿募集しています。投稿先—会報編集委員宛へ(切1月末日)

出版記念祝賀会

「新・3分間指圧」出版記念祝賀会



浪越先生親子を囲んで。
(於 新宿京王プラザホテル)

「新・3分間指圧」

●浪越徳治郎



「3分間指圧」の初版は昭和四十三年だから、もう十七年前のことである。爆発的な人気で百万部を超すベストセラーとなり、これがキツカケとなってテレビでの「指圧教室」が三年間連続出演で「指圧の心・母ごころ」は全国的に浸透した。

今回は、第一集から第三集までの内容を一新してまとめ上げたのが、この「新・3分間指圧」である。

主として、徹副校長がまとめて呉れたので、その感謝を込めて「出版記念祝賀会」を徹副校長の誕生日である二月二十七日を選んで新宿西口「京王プラザホテル」で開催した。

当日は、元厚生大臣・森下元晴先生を始め、文部政務次官・鳩山邦夫先生、相撲解説で有名なNHKの名アナウンサー北出清五郎先生、タレントのトニー谷さん等、五百名を超す多勢の人々から祝福され感謝感



浪越徹先生バースディケーキを元気よく一気に！
左・ハッピーバースディを唱われた田村友里さん

激の至りだった。

私にとって、今年が「節目」の年である。指圧を開業したのが大正14年だから満60年である。学校を開設して満45年、11月3日の誕生日で満80歳を迎える。傘寿の祝い兼ねて節目を祝い度いと念願している。



▼ この日は浪越徹先生五十四歳の誕生日、自著「指圧+ストレッチング」(日貿出版)の同時出版、英語版も同時に発売になった。二重、三重の慶びの日であった。



大町北造先生の音頭で乾杯！



日本指圧専門学校 同窓会通常総会

昭和五十九年度 ●同窓会概要



同窓会総会終了後合同で！

日本指圧専門学校同窓会の昭和五十九年度通常総会は桜花爛漫の四月二十二日午前十時から文京区茗溪会館で開催された。片岡弘昌氏(21期)の司会で始まり、吉田克廣(1期)副会長の開会の辞、君ヶ代斉唱に次いで山内貞四郎会長の挨拶、ハワイから出席の第15期生でハワイ愛泉指圧学校長因泥文彦先生のアメリカ指圧界の現状の報告、神奈川歯科大教授佐々昭三博士の祝辞があつて議事に入る。

議長選任では司会者一任で佐藤玄祥氏(19期)田端哲郎氏(13期)が指名され、相沢幹事長(15期)の会務報告では故人の同志12名に全員が黙禱を捧げ、青木会計(19期)の決算報告、山口監査の監査報告の三つを合せて承認、次に新年度の事業承認、新予算では会則一部改正と共に会費を28期は八千円、29期より一万円に値上げ、別に協賛金制(一口千円)を設けて実施することに拍手をもつて決定。

役員改選では監査幸村善雄氏(10期)の辞任に代つて小川清氏(25期)が新任の外は留任に決し新役員代表山内会長の挨拶が



同窓会の発展を祝して全員で三本締め 中央 小出忠志副会長

あつて第一部を終る。

引続き第二部記念講演に移り日本指圧専門学校講師松本忠久先生より「指圧師のための臨床心理」の講演が五十分間(別項)述べられ、午後一時から懇親会に入る。へき頭箱根の出張先から駆けつけた浪越名誉会長からあいさつがあり、続いて、相談役浪越徹先生の乾杯音頭で懇親会に移り、互いに盃を挙げて久闊を叙し合い健康を祝し合つて歡を尽し、午後三時、石垣唯一副会長(6期)の閉会の辞をもつて終了した。(指の光三二二号)

◆ 祝 辞

— 名誉会長 —

浪越徳治郎

皆さまの元気なお姿に接して嬉しい限りです。私は健康に恵まれて元気ですが、これも指圧のお蔭です。指圧はご承知の通り



同窓会懇親会会場

身体のコリをとる。コリを取り去るから健康なのです。だが心のコリも健康を害する原因でストレスもそれです。心のコリは、良き友と語り合う同窓会のように旧交を暖め、話し合いをする、これがいかに心を晴れ晴れさせることか。昔の言葉に、「友情は悲しみを半減し

よろこびを倍加する」
そうです、同窓会はそれです。同窓会は文字通り、同じ窓を眺めながら一緒に教室で勉強した仲間であり、同じ心の友の会です。同じ心で話合つてゆくところに同窓会の意義があると思います。皆さまのご健康をお祈りし、ご挨拶と致します。

●ご案内
今年度同窓会案内は18ページをご覧下さい。

講演抄

指圧師の為の臨床心理

—日本指圧専門学校—

●講師 松本忠久



臨床心理は病める人の心を対象にしている。そこでは、夜泣きをして困る赤ん坊から、親に甘ったれて学校へ行かない子、おとなに反抗し非行に走る中学生、ノイローゼや心身症、夫婦問題などに悩むサラリーマン、孤独や疾病に苦しめられ、死を恐れる老人など、さまざまな人たちの少しでも力になろうとしている。

一般に、物事が望む通りに運び、人とのつきあいも円満である時、人の心はおだやかな状態になる。さらに身体の健康が良ければ、その人の心はまさにはずんでくるであろう。このような状態を望んで、私たちはいろいろ心がけている。食べ過ぎたと思えば控える。仲間が燃えているのを見ると自分もと思う。失敗にたいして頑張らなくてはと自分を励まそうとする。このような調整力をもっているのが人間の心である。

なかでも自分に暗示をかけることができるのは、動物にはなく、人間だけである。どんな人たちも、調整力や自己暗示力をもっているはずである。

ところが、悩みをもったり健康を害すると、この調整力は、悩みや疾病を取り除くことにのみ向けられて、人間は他に気がま

わらなくなる。このような患者の心理は、ちようど自己中心的な幼児そっくりである。「自分はだめだ。治らない」といった自己暗示をかけるようになると幼児より仕末がわるくなる。

患者の心理を述べるならば、身体の痛みや疾病に対する苦悩に加えて、そこから心の痛みも現れてくるのである。「なぜこの身体の痛みがこんなにも私を苦しめなくてはならないのか？なぜ私はこの苦痛というものに身ぐるみ明け渡し、無力にさせられ、自由を奪われなければならないのか？」このような心の痛みをも持っていることを、私たちは見逃がしてはならない。

ここで患者の心理を整理してみよう。

- 1、真正面から病気を認識しようとする（警告と罰を受けたと取る。屈辱を感じる。恐怖から暴君のようになる等）
- 2、病気の内容を理性的に正しく知ろうとする。
- 3、怒り、戦い、勇気、平静、なげき、などによって耐えようとする。
- 4、病気に伴う責任（仕事や家族）を感じ

- 5、自尊心を強くもち、品位を保とうとする。または自分を憐れむ気持をもつ。
- 6、周囲に甘える。または禁欲的になる。
- 7、治療者に対して、従順、信頼、感謝、または要求がましき、不信、攻撃などを示す。

- 8、他のことにも注意を向けて活動する。または何もせず、ぼんやりしてしまう。
- 9、神仏にすがる。

これらの心理は患者によってさまざまであるが、治療者としては、患者の気持や態度がどんなものであれ、暖かく受けとめ、大きく包み込むような気持、幼い子に対するような母心をもつことが必要である。患者の心に共感性豊かな治療者は大変にすぐれている。

ノイローゼの患者は、おおむね幼少時に母親との関係がうまくいっていなかったことをフロイトが指摘した。母心を充分に与えられていなかったといえる。アメリカのハロー博士の実験は母心の原型を示している。生れた子ザルたちを、針金の代理母親と毛布の代理母親とで育てたところ、子ザルは毛布母親の方になつてしまし、針金母親には、お乳をくれても、見向きもしなかった。肌ざわりやぬくもりが子ザルをひきつけたのである。スキンシップと呼ぶ。さらに大熊のおもちゃを入れて怖がらせたところ、子ザルはすぐ毛布母親の方へとんでいった。こうして育つたザルはしっかりしており、おとなになった時、母親として自分の子をちゃんと育てた。つまり、母心の原形はスキンシップと怖い時にしっかりと受けとめてくれることにある。一方、針金母親だけで育つたザルは、母親になつても、自分の子を育てようとはしなかったという。

心身症も現代に多くみられる。ある女性アナウンサーの口内炎が、実は放送という神経をすり減らす仕事のストレスからであった。このように心身症は、単なる身体的疾病とは異なつて、複雑な心理的仕組みを、背景にもつているのである。患者の心理状態をも含めた全体をみていくことが大切と

なつてくる。

指圧は、単に触れる、撫でる、もむのとは違って、おすわけであるが、この外から内へというスキンシップの方向は、心理的にみても、外から患者の心の内へせまるといった感覚を患者に与えることができる。

すなわち、患者の気持を深く察し、暖かく包み込む気持を込めて指圧することは、身体だけではなく、無言であっても、暗示力となつて、患者の心にしみ通っていくことであろう。それができるのは、身体的知識ばかりではなく、患者の心理を深く理解している治療者なればこそである。自分の心の痛みまで汲んでくれる治療者に対して、患者は絶大な信頼感をよせてくれる。

そうした信頼感から、自ら進んで治そうとする気持ちがあふまれ、生命力が湧きあがつてくるのを覚えるに違いない。このように、治療とは単に痛みをとるだけにとどまらず、心身ともに喜びと幸福感にみちた状態にもつていくことであろう。

最後に、皆さんは年齢的にいつても壮年期の方が多いと思う。人間として円熟期にある。エリクソンというアメリカの精神分析学者はこの年代のことを「自分が誰のことを心にかけて、何を成就しようとするか、自分をつくり出したものをどう育てる方針なのか、はつきりさせていなくてはならない年代である」と述べている。「育てる（ケア）する」心こそ母心の本質である。

「指圧の心・母・ころー」

おせば生命の 泉湧くー」

このスローガンは、浪越先生の作ですが、指圧の真髄がよく表現されている。

指圧は、指で圧すことに意義があるので、機械器具では指圧の味は出せない。皆さんは指圧道に精進されて人類の幸福に寄与されたい。



近況 3月20日現在
(敬称略順不同)

日本指圧専門学校現教職員

48年副校長現在に至る。

◆担当教科名 医事法規 衛生学

◆近況

39年、6期生として卒業してから20年余お世話になっていきます。73才の老境に入りそろそろ「ぼけ」が来たようですが元気に楽しく過ごしております。

佐々昭三

◆在職期間 自38年～至60年

◆担当教科名 臨床各論・生理学

◆近況

貴校とは長く深いつきあいで思い出の一部は貴誌の別文に書きました。また4月からの28期生の教育に意欲を燃やしていますから御安心?下さい。

田村 鉦二

◆在職期間 自42年～至60年

(第11期より現在に至る)

◆担当教科名 病理学

◆近況

相変わらず楽しく真面目にやっています。飲んで失敗し、反省の連続です。一向に進歩していません。

藤井 正弘

◆在職期間 自48年～至60年

◆担当教科名 指圧実技

◆近況

浪越指圧本部センター
後輩(学生)の実技指導と治療に専念している毎日です。趣味として始めたゴルフも今年で6年目……。同窓会、徳治郎杯コンペも今だに優勝のチャンスなし、大優勝カップと豪華賞品の表彰式を夢みる今日この頃です。

山内 貞四郎

◆在職期間 自49年～至60年

◆担当教科名 臨床各論・漢方経穴学

◆近況

医学の広さと深さに圧倒されながら11年間。

母校にお世話になりました。これからは理学療法面の面々、東西両医学の接点をほんの少しでもよいかから前進させたいものと念願しています。

浪越 満都子

◆在職期間 自51年～至60年

◆担当教科名 診察概論・指圧実技・あ、マ実技

◆近況

近ごろは学生の年代もずつと若くなり、カレッジ的要素が増えて来ましたが、日を積み重ねるにつけ指圧のすばらしさ、難しさを痛感しています。

後藤 保正

◆在職期間 自48年～至60年

◆担当教科名 解剖学

◆近況

最近再び成長期に入りました。

鈴木 林三

◆在職期間 自49年～至60年

◆担当教科名 指圧実技

◆近況

ふだんは国電有楽町駅前にある浪越指圧センターにあります。有楽町で逢いましよう!

上野 欣二

◆在職期間 自50年～至60年

◆担当教科名 衛生学・医学史

◆近況

2年前から教務の仕事に関係し学生と学校生活を共にすることが多くなった。学校の伝統を引きつぎ創造することに使命感を感じています。

小林 秋朝

◆在職期間 自50年～至60年

◆担当教科名 指圧理論・指圧実技

◆近況

3年前より指圧理論も担当していますが、

益々指圧道の奥深さを痛感しています。相変わらず学生の皆さんと共に汗して燃えています。

青木 宏

◆在職期間 自53年～至60年

◆担当教科名 診察概論

◆近況

「盲蛇に怖じず」という諺がありますが、勉強すればするほど自分に判らないことが際限なく出てくる感で、最近怖じずの襟を正すといった心境です。

木下 誠

◆在職期間 自51年～至60年

◆担当教科名 指圧実技

◆近況

お蔭様で元気です。今年度は1年生の夜間を担当させて頂いております。早いもので長女が小学校へ行くようになり成りました。ゴルフ、テニス、スキーも、おつき合い程度やっています。

村上 邦夫

◆在職期間 自53年～至60年

◆近況

解剖実習が4月下旬より始まる予定で、その準備で今、毎日が肉体労働をこなしています。実習は10月まで行われるので精力、気力がガンバリたいと思います。

出口 和雄

◆在職期間 自55年～至60年

◆担当教科名 生理学

◆近況

最近酒に酔うことを知りました。

柳本 昭人

◆在職期間 自56年～至60年

◆担当教科名 解剖学

◆近況

相変わらず大声を張り上げて講義をしています

す。先日風邪をひいて声が全く出ず、マイクを持って講義を行ないました。指圧専門学校で講義を持たせて頂いてから初めての経験です。加齢による生理的衰えは着実に加わって来ているようです。

山田 明信

(南浪越指圧)

◆在職期間 自56年～至60年

◆担当教科名 指圧・あん摩・マッサージ

実技

◆近 況

現在、指圧一筋の生活です。

藤田 一彦

浪越指圧有楽町センター

◆在職期間 自57年～至60年

◆担当教科名 指圧実技

◆近 況

元気でやっています。銀座方面に出た節は寄って下さい。コーヒーぐらいは！。

井沢 正

◆在職期間 自21年～至54年。目下休職

◆担当教科名 漢方概論・解剖・生理学

◆近 況

昭和54年12月5日交通事故に遭い全身麻痺の重症に陥りましたが、優秀な治療により奇蹟的にも九死に一生を得ました。以来毎日のように有り難い指圧の継続と同志の諸先生方の温かい御芳情に支えられ6年数ヶ月を経過し牛寿を迎えることになりました。慈に謹んで厚く御礼申し上げます。三拝合掌 井沢正

旧教職員

定 祐 寅 一

定祐指圧治療院 日本指圧協会

◆在職期間 自32年4月～至40年10月治療部

◆担当教科名 病理・実技(6期～9期)

◆近 況

千葉県指圧師会臨床研究会の世話人として毎月研究会へ出席しています。毎日治療業

務に専念しています。

吉田 勝平

生涯体育研究所長

◆在職期間 自32年4月～至44年3月

◆担当教科名 あん摩・マッサージの理論及実技

◆近 況

1906年3月4日生れなので年金生活(79才)自宅で生涯体育研究所を開き、30年代から70年代の人達(主に女性)に体操(あん摩、マッサージ、指圧を含めた)の指導と水泳指導(上智大、東京YMCAスイミング、アドバタイザー)で忙しい毎日です。また、水泳指導学の確立のために水泳の基本の研究に努めています。

高野 一雄

東日本学園大学歯学部解剖学教室

◆在職期間 自48年～至49年

◆担当教科名 解剖学

◆近 況

御校におかれましては益々発展されておられ、また同窓会におかれましても着実に大きい会になって存知しております。小生は歯大で解剖学を担当しておりますが御校での時代の諸兄弟から私が学んだことも応用しています。貴同窓会の益々の御発展を祈り上げます。

吉田 克廣

日本指圧協会副会長兼専務理事

◆在職期間 自35年～至55年

◆担当教科名 その間病理学・医学用語・あん摩・マッサージ・指圧理論実技

◆近 況

指圧師の業権確立、地位向上発展に尽力、資質の向上を計ることに心掛けて来たが意の如くならず、近況は身調を害し(心悸亢進、高血圧と)加療中である。

石塚 寛

徳島大学歯学部第一口腔解剖

◆在職期間 自37年～至55年。6期～22期

◆担当教科名 解剖学

◆近 況

徳島へ参りまして早や7年になります。今年大鳴門橋が開通しますと半分だけ本土に近づくことになりました。徳島と云えば阿波踊り、私も大分リズムに乗る様になりました。皆様も指圧連を組織して一緒に踊りませんか。家族が東京に居りますので原則として第一土曜日は上京しております。何かの折には御連絡下されば幸甚です。

糸賀 伸由

日本指圧協会大田支部

◆在職期間 自45年～至53年

◆担当教科名 衛生学

◆近 況

- ◎糸賀指圧治療院主宰
- ◎毎日書道展審査員
- ◎独立書人団会員・審査員
- ◎森下フロード・コンサルタント
- ◎健康マラソン名人位免許
- ◎九州横断150km走破
- ◎ホノルル・マラソン完走2回etc.

稲場 啓護

稲場指圧治療院

◆在職期間 自49年4月～至55年3月

◆担当教科名 指圧実技

◆近 況

- ◎マラソン救護として、横浜元日マラソン、青梅マラソン、神奈川マラソン、松戸マラソン、河口湖マラソンに参加、指圧奉仕しています。
- ◎神奈川県支部長として、毎月の研究会、指の光かながわ版の編集、たまに指圧教室の講師として指圧普及につとめもちろん指圧治療も一生懸命やっています。

松本 忠久

秋田短期大学

◆在職期間 自56年4月～至60年3月

◆担当教科名 心理学

◆近 況

元気です。北国の短大で教鞭をとることになり、残念ながら指圧専門学校を退職させて

いただきました。

中原 義行

第一生命保険相互会社医務部医事調査室

◆在職期間 自52年～至56年

◆担当教科名 病理学・生理学

◆近 況

毎日、小田原(足柄上郡)の山の上に通勤しています。今のところ、まあまあ健康状態です。医学知識の一般教育的な講義も時々しています。

小出 忠志

◆在職期間 自43年～至57年

◆担当教科名 指圧実技

◆近 況

公務に専念しております。今後とも同窓会発展のために微力ながら尽したいと思っています。

片山 道子

◆在職期間 自51年4月～至60年3月

◆担当教科名 衛生(51・52年)生理(53年)

◆近 況

60年3月で退職し現在家におります。皆様の御健勝をお祈りしています。

松尾 政次

松尾治療院

◆在職期間 自55年4月～至60年3月

◆担当教科名 指圧実技

◆近 況

今年3月で退職してやっと卒業できました。母校で学んだ公私に亘る経験を活かして、先輩の母と頑張っています。日に日に充実して往く同窓会の発展をお祈り致します。

谷川浩先生、木村勝(安部)先生、中村隆之先生、小川芳昭先生、石関清人先生、初谷孝雄先生、明島正典先生、近況便り未着の諸先生方は以上の先生です。(3月末日現在)

YOKOGA 日指校と私



●神奈川歯科大学教授
●組織学教室、医学博士
●日本指圧専門学校講師

佐々昭三



私が日指校と関係したのは飯田橋の大学に勤めていた時からで、新学年が開始して間もなく、前任の科目担当者の都合で、私が「症候概論(当時のカリキュラムで、現在の診察概論の前半と、臨床各論の治療部分が一語になつていったもの)の講義を依頼された。

私に声がかかったのは、すでに日指校で解剖学を教えていた石塚寛氏(現在徳島大学助教)がこの大学にいて、私の同僚だったからだ。氏は日指校の教育に熱意を燃やし、講義用のノートから現在の概説解剖学が生まれ認められて満都子先生の御令妹と結婚された人だ。

六期生は昼・夜の部あわせて百数名だった。私ははじめ夜の部だけ教えていて、夕刻大学の玄関に和民先生や岡安先生(校長先生の御長女の夫君)の車のお迎えを受けた。当時は木造の校舎で、教室は実技室を兼ねる畳敷きで、小さな木の机でその下に皆の膝が見えた。校長先生の住宅は現存のマンション側にあつて、到着すると校長御一家の夕食にいつも同席させていただいた。

六時から授業開始だが、壁も天井も木のせいか、ちよつと薄暗いが、ほの暖い感じだった。私は教科書を順番に数行ずつ読ませて説明して行つたが、このやり方は「専門学校」に昇格してからはやめた。以前はよく生徒に関連事項を多方面から質問していたが、この頃

はずつとすくなくしている。拙宅の書架の一段に、貴校の各期の卒業アルバムが並べてある。私はこれを開いて皆さんと対面することがある。

六期頃のものには縦横二〇×二六センチ、厚さ一・五センチくらいのものだが、現在のものは短い方で二六センチ近く、厚さも二センチくらいになつている。写真も二十期のものからはカラーになつた。

当時の一同の記念撮影は昼・夜の部合同で伝通院の本堂前で写っている。この全体写真はルーペで見て各人を確認するのは困難だ。

こんなことで各期のアルバムを開いて、いくつかの思い出を綴つてみよう。

その頃はまだ都電が走つていて、私は水道橋まで利用していた。

十五期生が二年生の年の夏(昭和四十七年)私は大学から派遣されて、南廻りでヨーロッパに入り、北米を経て世界一周してきた。

因泥さん(現在ホノルル、愛泉指圧学校長)が二部の委員長で、日の丸にクラス全員の寄書をしてくれた。当時はすべて羽田出発だったが、校長先生の亡き奥様が和民先生と見送りくださったのには恐縮した。また九月初旬帰国したのが、今年和民先生の車で因泥三河さんが迎えに来てくれて、千葉の自宅まで送つていただいた。

翌年夏、徹先生が団長、因泥さんが副団長で、第一回の海外研修旅行(フランス、スペインなど)が行なわれた。因泥さんはその後単身でヨーロッパに行つたり、ハワイに行つたりして永住するようになったのだが、この飛躍は私の世界旅行に刺激されたのだと云つていた。

十六期の一部は満都子先生在席のクラスだった。先生は優等生だった。卒業近くになってクラス会名を募集していたが、私も「真実一路」と云う言葉が好きだったので、「真実一路」と云う名を応募してみた。これが採用された。真実一路とは北原白秋の詩の言葉で、山本有三の有名な小説の題名である。

また翌年の運動会には、当時テレビで「赤ひげ診療譚」をやつていて、私の提案で二部の仮装としてやることになった。当日見物し

ていたら私も引張り出されて、ヤブ医者の演技をさせられた。またこのバックコーラスとして、やはりその頃テレビで山口崇、中野良子らが「平賀源内」をやつていて、そのテーマソングがたのしかったことから、その替え歌を小生が作つて皆で合唱した。

その一番だけ披露してみる。

指圧しよ 指圧しよ 一日一度は指圧しよ

こんなにも効くものありやしない

指圧しよ 指圧しよ 我等の誇る十六期

指圧の風を巻き起こせ

十七期には故風間寅吉さんがいた。風間さんはお孫さんの学生帽をかぶり、徽章には指圧のバッジが輝いていた。学校に出入りの時、校門の所でおじぎをする人もいた。

十六期から二年の修学旅行は下田に行くようになり、私も以来回数つきあった。それ以前は善行寺から志賀高原を廻つたり、リハビリで有名な鹿教湯温泉から美しヶ原に行つたりしていた。

十八期も女性を含めて(女性が主か?)ツワモノ揃いで、昼食に近く中華料理屋に入ると、数ヶ所にクラスのグループが陣取つていて、しかも自分達で冷蔵庫からビールなどをドンドン持出してやつているのには驚いた。また運動会で十九期のクラスと一語に、みこし担ぎにも加つた。ハナスジに白粉を塗られたハッピー姿の写真もある。

以上いくつかの思い出を書いてみた。私はこれからも日指校のために、皆さんの後輩の教育指導のために一層努力、研究するつもりです。皆さんも伝通院の学舎に励んだ当時の初心にかえつて、指圧を通じて社会に貢献して下さい。御繁栄と御健康を祈ります。

1 回 母校臨床指圧 研修に寄せて

●二十三期生 山下徹雄



卒業後しばらくの間、実技から離れていたのが、多々曖昧なところがあり、基本からやり直す心算で参加しました。

五月から十月まで、週二回とはいえ、長丁場を講師の真剣さに引きづられた形で、終了を迎えることになったようでありました。

時には御自分のパンツを下ろしてまで、浪越圧点を教示された講師が居られたのは、忘れられない一コマであります。

校長直接の肌をふれるの御指導については、研修生一同が満足した点ではないでしょうかと思ひます。

講習生の老若男女の違いを越えて、コミニケーションは実に良好で、自然発生的な和気は、講習内容をもプラスにしてくれたようであります。

指圧実技は、やはり体で指で覚えなければならぬことは、周知のことです。

講習修了時には、参加者各自それなりに、自信のついたことは明白で、深く感謝するところであります。

素晴らしい指導をして下さった講師の諸先生方ありがとうございました。

今後も引き続き、母校の企画としてお願いしたい次第であります。

同期会便り

◆第四期(二十二年目の再会)

十七年振りに見舞れた、大雪のあと、武蔵野の自然にも、ようやく早春の息吹きが感じられます。私たちの周りでも、新しい躍動がはじまりました。卒業、入学、就職祝など、悲喜こもごもの便りが聞かれます。

想い起せば三十七年三月、二ヶ年の学生生活を終えて、指圧師として巣立ってより、矢の如く過ぎ、今日、有るを思います時、万感のおもいが致します。同期の方々と一度集りを持ちたいと、兼々思い乍ら延々になっておりました。

昨年の新年会の折、急遽話が纏まり、三月十一日(日曜日)に決定の運びになりました。氷雨降る寒い前日に比べて、うその様な快晴に恵まれ、大変幸運でございました。会場は、五反田、近くの、ゆうぼうと(簡易保険郵便年金会館)の六階、桔梗の間で、丸二十二年目の日に、旧交を暖める事が出来ました。

六十五名の案内に三十名の出席者を得て世話人一同大感激でございました。遠くは、青森、山形、富山、静岡等から出席して頂きました。石原博司さんの司会、杉野隼太さんの挨拶、そして遠路遙々おいで下さった青森の古跡健次郎さんに乾杯の音頭をとって頂きました。大変残念なことは、浪越校長先生の御臨席を仰ぐ事の出来なかつたことでございます。



第4期生の集い(於 ゆうぼうと)

それで、先生より御鄭重な心の籠った祝辞を頂戴致しておりましたので、木戸啓介さんより、伝達して頂き、出席者一同、感激でございました。米山初子さんの横笛(千鳥の曲)の音色に合せ呑む程に、酔う程に、すっかり昔しに戻り、教室での勉強振り、近況の様子、お子さん、お孫さんと、次々話しに花が咲き、カラオケと仲良くしている間に、刻々と時は迫り、名残り惜しさが募るばかりでございました。和やかに過ぎてしまひ、次に逢う日を楽しみにお別れ致しました。最後に、石原さんの提案で、二年後の再会を約束し『もしも明日が』のメロデーに乗って全員が青春に返って合唱、二十二年前に若返えることが出来ました。出席の皆様が健康で若さを保っておられる秘訣は、やはり、指圧業に携さわられておられる所以と痛感致しました。心強く、

頼もしい限りでございます。
「一期一会」井伊直弼の諺に、此の一刻を話し、会うと云うことは、二度と無いことなので、最高に楽しく、大事に語り合おうと云う言葉を、染みじみ味わされた、一日でございました。
永山琶奈子記

◆第十一期(六九鳥会からのお願い)

左記十一期生の消息を御存知の方はお知らせ下さい。お願いします。氏名の()は旧住所です。

- 可部正子(杉並) 大越捷夫(世田谷) 小黒満江(大阪) 斉藤治平(江戸川) 田村芳磨(柏市) 高田園枝(芦屋市、植村と改姓) 高橋英子(草加市) 時田安道(港区) 林泰儀(品川) 三浦イヨ(江戸川) 阿部修治(練馬) 秋山勝次(名古屋) 池本健吉(八王子) 坂本明子(港区) 坂田祝親(江戸川) 斉藤実(町田) 佐藤恵美子(墨田) 杉本邦雄(山梨県上野原) 田中畦三(府中) 藤野礼子(足立) 松本徳太郎(品川↓外国?) 宮本信也(茅ヶ崎) 三上金男(武蔵野市)
- 連絡先 二二七〇松戸市金ヶ作四〇八一七
九電〇四七三七八八―〇三四四 岡元 満

◆第十二期(とわに会)

とわに会では昭和五十九年度総会兼懇親会を去る昭和五十九年五月十四日、十五日の両日黒潮躍る房総海岸の小湊の国際観光旅館ホテルニューナカヤで開催した。この日東京駅の銀の鈴下に、参集した会員は、総勢十八名、午前十一時発の特急わかしお号に乗車、新緑鮮やかな房総路を車窓から眺めて午後一時小湊到着、ホテル出迎えの

マイクロバスで先づ日連上人ゆかりの地誕生寺を参詣、この地が産んだ佛教の偉人の跡を偲ぶ間もなくホテル到着早速ホテル自慢の大浴場で身心の疲れをいやしてゆかた着姿でくつろぐ、懇親会までには時間もあるのでお互いに相互指圧や、久しぶりの積もる話に時を過ごす。伝通院の母校を卒業して既に早や満十有四年の歳月が流れ、その間幽明、境を異にした不運な同志も幾人か教えられて諸行無常の非情さを痛感すると、元気に久しぶりに同志に会うことの出来る幸わせを思うと一入感慨深いものがある。やがて六時半宴会場集合、先づお互いの健康と会の発展を祝って同志仲田鉄男氏の音頭で一同乾杯、ホテルの特別サービスで数名の歌謡楽団の演奏が興を盛り上げ、各自ののど自慢が披露されて日頃の疲れも一辺に吹き飛んで太平洋の潮騒の音に和して終夜吾等会員の歓声がホテル中に響き渡った。翌日ホテルの好意でホテルのマイクロバスで清澄の気がみなぎる清澄山、その他の名所を見物して盡きぬ思い出に、来年度の茨城県に開かれる科学万国博覧会見学を兼ねた総会の再会を期して一同元気に解散帰路に就いた。

尚、今回の参加出席者は下記の会員(敬称略す順不同)

- 糸賀伸由、糸賀ミヨ子、井上久栄、梅沢栄子、増田イチ子、仲田鉄男、鈴木章、小林徳久子、佐藤利吉、野口吉広、山村早奈江、木元弘子、浅田有紀、細田平次郎、田中武夫、望月邦彦、米津智夫、田村親郷、以上十八名

現在の会の役員、会長 田村親郷、副会長 田中武夫、副会長兼会計 井上久栄、副会長 梅沢栄子、会計 糸賀ミヨ子

尚、山崎清光、糸賀伸由両氏は長期間会長の重責に就かれて会の発展に尽力されたことに對してはまことに感謝に堪えない次第であつて、深甚なる謝意を表する次第である。

田村親郷記

◆第十七期会

第四回同期会は十一月二十五、六日の両日千葉県安房鴨川のグランドホテルで、担任その他でお世話になった、浪越校長、徹先生、石垣惟一先生、藤井正弘先生、来賓に浪越校長の長兄浪越茂一氏、同期生十八名が参加した。会は司会上野幹事で六時開会、物故された風間寅吉、渡辺昇、村林稔彦、永見一忠四柱の霊に黙禱を捧げ、続いて小林秋朝委員長の開会の言葉、校長先生の挨拶、徹先生の乾盃音頭で開宴、石垣、藤井両先生の挨拶、同期生全員の近況報告があり、第七期生山口昌敏夫妻が出席四先生を表敬来館、ビール一打寄贈されカラオケ大会に参加された。一次会終了後臨床実技の披露研修、クラブで過ごすもの、名残りはつきず先生方を中心に一室に全員集合、三次会を開き徹を尽し午前一時七時間に及ぶ同期会の幕を閉じた。

今秋都内で十周年記念同期会を企画致しています。その節は是非ご出席下さい。

●第十七期会賛助金協賛のお願い

各クラス委員代表が集まり協議した結果任意の賛助金制度を設け、今後の会運営補助費にする事に決定し、昨年同期会案内とともにご通知したところ、早速同期生より賛助頂きありがとうございます。

賛助金者(芳名(敬称略))10・16・4・15日
特別賛助金者(一万)浪越校長、十口(一万)

菊地みつほ、堀江洋佑、小野修、五口(五千)内木伊佐子、山田和子、馬淵寛、瀬戸玲子、糸井正子、青木広二、上野欣二、高橋弘奄、中尾努、佐藤文子、小林秋朝、三口(三千)戸来宮子、藤森みや、広村いと、戸川弘子、二口(二千)志賀とみ子、小西陽子、渡部京子、渡辺和枝、小芝頼三郎、一口(一千)長谷川きぬ、北條喜久一、桑原ナカ、合計二二〇、〇〇〇円

協賛金、一口千円、何口でも可隨時受付
振込銀行名、第一勧業銀行御徒町支店
口座名日本指圧専門学校第十七期会、小林秋朝 口座番号、091-1239752 小室照二記



第17期会 恩師を囲んで
(於 鴨川グランドホテル)

◆第二十四期A組(錦絵会)

萌火松本大会と名うって、東京に続いて、第二回のクラス会は、五月26・27日会場を地方に移して一泊二日で信州浅間温泉の小柳ホテルで行いました。遠方になったせいか、クラス員のき弱の23名が、参加し、ホテルに着くや休む間もなく、午後2時から

6時迄中央に希望者が、患者のモデルになり、山田滋、篠原、板谷、手塚の諸先生の臨床治療を中心に、質問も混じえ行いました。治療の第一線で働く仲間の指圧の中に導入した椎骨、骨盤等の矯正等目を見張る技も一同参考になりました。治療の発表時間は、どんなに時間有っても足りぬほどで、一人として湯にもつからず、懇親会に移りました。突然帰らぬ人となった、稗田先生の思い出を共に治療院を起した村山先生に語って頂き、かつての人間味豊かな亡き人へのびました。一泊出来る懇親会の酒は格別で、カラオケで、次々飛び出す歌で童心に帰った仲間の顔は紅潮し生きる素晴らしさを感じました。

宴が終る頃ホテル従業員の身体を、気づかい、無料で治療する事を伝えた処、ほとんどの方が、是非と云って、畳に横になり会場いっぱいに、各先生が、それぞれに分かれて懸命に治療する姿は、こうした集い以外では出来ない光景でした。翌日朝食後上高地にタクシーを連らねて向いました。ホテル側では昨夜の札を口々にのべ、皆さんで、別れをおしんで下さいました。残雪の残る上高地には、待っていたかの様に穂高岳の勇姿が顔を見せ、其の向いから流れる清流が、カッパ橋の吊橋にむらがる仲間の足下を何処迄も澄んで、こんこんと流れておりました。発起人としての私は、二人日間鬼に角時間を有効に使って、想い出に残る会と考えたせいか、唯忙がしく無理の有った二日になってしまったと、列車がホームから去って路線から消えた時、ポツカリ胸の中に穴が開いた様な感じがしてなりません。でも会を重ねる度に重厚な集いになる事を期待をし、再会を待ちます。

◆第二十四期B組だより(茜会)

上島正人記

二十四期生が卒業したのは五十七年三月十四日陽春うらかな日だった。あれから丁度二年経過した五十九年三月末日のこと、私は同窓の友々のお顔を想い出しながら、お一人お一人に往復ハガキで現況を知るか、お便りを出し、返信によって皆さんの生活を知ることが出来た。返信されたのは約五十%でそのうちの約四十%の方々が、それぞれの形で指圧道にて毎日を精進している事が分り、嬉しく思いました。一人で喜んでいるのも勿体ないのでクラス全員(八十五名)に、そのハガキを一冊の文集形式にまとめて、再度お手元に送り届けて上げました。近況を知った方々との交流が新たに始まり文集に対する反響が数々私の所にも寄せられ成功したと思っているところです。名づけて!!卒業二年!! ああ友この友の歩み。と題したものです。

B組では第一回クラス会 五十七年九月末日 東京大飯店にて開催

◎第二回クラス会 五十八年九月末日 一泊で福島の甲子温泉にて開催

◎第三回クラス会 五十九年十月末日 一泊で江の島にて開催した。

遠く秋田県から長野県勢全員出席と云う盛況で、江の島一周の観光は修学旅行の再現のようで楽しい観光だった。夜は実技交換と云うお笑いの中で、またたく間に時は過ぎ、翌朝十時には、江の島のあの長い橋のたもとで、全員別れを惜しみ、来年の第四回

目のクラス会を心待ちし、お互いの道で元気に精進し、再会を約し姿を消して行った。協議事項として

◎B組の名称を舊会とする。

◎通信費が残り少なくなったのでクラス会に出席した人達から一金壹千円をご寄付していただき、来年度の通信費とする。往復ハガキが届いたら誠意を表し返信する。

◎住所と姓の変更はすぐ連絡する。

◎来年度の幹事 山梨県の米山氏

静岡県野末氏

と決定。乞うご期待を。

同窓会報の尊い紙面をおかりして、クラスの皆さんにお願いやら、今までの二年少々のクラスの歩みをお知らせ致しました。お元気で再会をお楽しみに!!

昭和五十九年十二月二十三日

馬場今朝美記

◆第二十四期D組クラス会

去る十月二十一日二回目のD組クラス会を後樂園前の弓町クラブに於いて在学中御世話になった担任の上野欣二先生を御迎えして開催、唐澤正臣幹事の挨拶の後一同再会を祝して、徳水勇治郎氏の音頭で乾杯、続いて、上野先生が夏休みに行かれたフランスの現状報告、又中国を訪問、指圧、鍼灸の現状をつぶさに探求この程帰国した亀井正夫氏の写真を見ながらの説明、更に森幸二氏の患者に対する指圧師の接し方などクラス会はさながら研究会の様相。長野県よりかけつけてくれた藤森増雄氏も学窓の思い出、卒業後の苦労話に時のたつのも忘

れ延々九時間に及ぶクラス会、最後にお楽しみ抽選会を行ない、次回の再会を約して散会しました。唐澤正臣記



第24期D組クラス会
担任上野欣二先生を囲んで

◆第二十五期生

同期会開催について

私達第二十五期生は卒業後早や三年目を迎えました。

同期の方々はその後、如何に過ごし、又活躍して居られるか、又在学中に御世話になった諸先生方に御礼や近況を報告する機会を考えて居りましたが、幸い今年七月に開催を予定の母校同窓会総会が学校開設四十五周年に当る記念すべき年にあたって居りますので私達第二十五期生が同期会として参加し総会を盛大に盛上げると共に私達同期生の語らいの場したいと思います。多数の同期の方々参加をお願いします。

参加要領については同窓会開催の細部が決定しました時に各クラスの代表よりそれぞれ御連絡致します。

昭和六十年一月 第二十五期生代表

A組 松本定男 B組 佐藤元彦

C組 飯島治雄 D組 小川 清

◆第二十五期C組クラス会

の開催について

「朋友は悦びを倍加し悲哀を分かち合う」とか「朋友とは自分以外の自己をいう」とかいますが「友あり遠方より来る」がピタシの第2回クラス会は飯島副官を先頭に鶴見・大貫・岩橋・内川・片瓜・澤口・清水(九州から上京)がスも無い〇〇ナイ……オラ東京でベコ買うグ、失礼)菅谷・鈴木(典)堂谷内・向井・山田(三)渡辺・金橋の各先生方・来賓に担任の小林秋朝先生(会の途中祝事で中座)を御迎えして開催された。一、会の運営について

次の事項を決定し実施することとした。

(一)病氣見舞(入院した場合)一五〇〇〇円

(二)冠婚葬祭(本人のみについでの場合、但し再婚を除く(戸籍上)一万円

(三)会の開催は毎年十月第2日曜日とする

但し60年10月13日(日曜)の開催については今回に限らず会員各自に対して別に通知せず実施するが、お互いに連絡し合い出欠を九月末日迄次の先生方に通知願います。

中澤・山田(三)・鈴木(典)・堂谷内・小川・高澤さえ子(美津子)・浅岡・鶴見の各先生



第25期C組クラス会
担任小林秋朝先生を囲んで

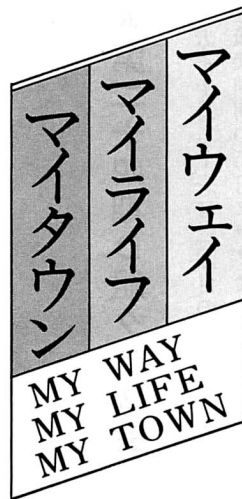
二、60年10月実施の会の運営について
先日(2月19日引越準備中で大ワラワ中の時、元気のイイ小林秋朝先生から(男性)珍しく電話があり、師団長の木下・副師団長飯島の両先生が共に病床にあり、今年実施予定及び諸事項について早急に決定し、漸定的(60年10月13日迄)に運営をと伝えられ、この事については、飯島先生から特にとり伝言もあり、他の先生方と合議の上運営することとしましたので宜しく御協力の程お願い申し上げます。(実施日の時間場所・参加費用・その他詳細については前記先生方と協議し7月末日迄決定し徹底することとします)三、懇親会(第二回コラム)
迷司会者山田(三)先生の司会ヨロシカラオケ大会、人前ではツツシミ深きツルミ・大ナキ両先生と鈴木先生の三部合唱(一ツから始まって十マデ)更年期・自

律神経失調に特に効果があるようです。 闘病中の先生方、予後療養中の先生方そ

れに患者サンに追廻され御多忙中の先生 方共に健康に留意され御自愛の程お祈り 申し上げます。若さをホコル小生もラム

【訃報】 岩橋諱先生が2月17日(後日知る)

幹事長木下松次郎先生は4月20日ご逝去さ れました。木下先生葬儀には小林秋朝先生 飯島、高澤、中澤、片瓜、金橋が参列しました。



暖かさを求めて



●二十一期生 馬場清

昨年一月地区会でボランティアの話があり柴山くわ(22期生田方郡葦山町)先生と 早速福祉事務所を訪問したら大変嬉ばれた。 市立養老院遊亀園を紹介され、指導主事 と打合せたり、各部屋を視て廻った。一部 三階建採光明るく好感が持てた、室員七十 名、介護者も居るとの事であった。医師は 週一回巡回し看護婦一名常勤医療には配慮 していると説明され治療室はホールの隣り 八畳間が当てられ柴山先生との治療にはま

あまあとという所、最初受診者は十名程で多 少の移動はあったが二月から週一回午前中 の約束で柴山先生と、一人で四名程の治療 を行った。

四月に園長主事は交代した。私も治療に 追われて打合せをせず治療要望者選定を申 し入れたが、十月になっても連絡もなく、 同園との奉仕は止めた。柴山先生は現在も 継続中。

さてその後、特設養護老人ホームへの奉 仕を続け空気にもなれて来て居ります。此 所はゆるい丘陵地南向き眺望の良い地に本 館、新館平家建百名を収容でき、寝たきり の人六十名治療対象者は四十九名との事であ った。週一回九時半から四時迄奉仕する との申出に、寮母さんも是非との事にびつ くりしたが園長課長共同意見だった。医師 巡回は精神科医、内科医各一名週一回で寮 母四十名、看護婦四名、理療師は見習五名、 治療室はホールの一部をカーテンで仕切り し、寝台で施術する。介護が大変なのか寮 母さんの指圧希望者が多く食事時間を短縮 しての奉仕である。対象者十二名から十七 名その中老人は六、七名で三ヶ月近いのに 半数にも満たない如何に指圧を必要とする か痛感します。精神不安定な脳卒中後遺症 患者、過重な看護に腰、肩痛を訴える寮母 さん達に暖かい思いやりの一押しと一言が 此の人達に張合いを与え、生きる喜びを感 じさせる事が出来るならと未熟な技ながら 努力を続けて居ります。自転車で四十分、 寒い日、風の日、帰宅夕食前、メモを整理 しながら身体の痛みを訴える人、心の淋しさ をポツリと話す人、之等悩む人の心の診断 が正しく診られ暖かく柔らかく手を当てる 事が出来、喜んで貰えたら嬉しいなあと思

う毎日です。 沼津市にて



オーストラリア便り



●十六期生 代子 千代 美香 浦川 香 浦川

月日のたつのは早いもので我々姉妹が日 本を飛び立ってから十年もたつてしまいま した。

最初の二、三年は生活様式の違いや国民 性の違いによって生ずるさまざまの情況が 気に障りイライラしておりましたが、その うち段々と慣れて、オーストラリア人達の 様にノンビリと暮らしていけるものならそ れでもいいではないかと考えるようになり ました。

十年前指圧学校に通っている時、昼間働 いて夜学校へ行って勉強するという生活パ ターンの中で指圧の実技ほど楽しいものは ありませんでした。

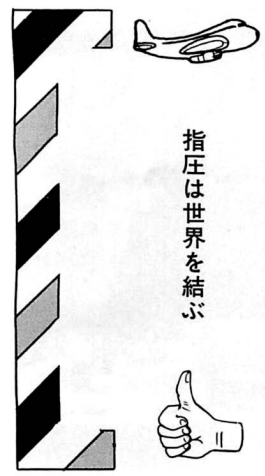
我々のクラスの实技の先生は、今は亡き 門間英雄先生でした。先生の口ぐせは、学 校を卒業して治療院を開いても、宣伝はす るな誰れでもいいから一人患者さんを治す ように、そうすればその人が患者さんと呼 んでくれるからと言われました。 我々はその先生の教えを守り、当地で六 年前独立開院した時も歯を喰いしばって、

宣伝はしませんでした。そのかわり我々姉 妹は、来院してくる人々に心をこめて丁寧 に施術しました。そのうち患者さんの一人 が指圧に感激してくれて、新聞社に私達の ことを紹介してくれました。新聞には私達 の写真と取材記者の指圧を受けた感想文と ともに半ページ大に掲載されました。お陰 で来院患者が多く今の指圧治療院大成功の 基盤ができました。

「首が痛い」、「腰が痛い」、「五十肩」、「足 が痛い」という人の話を「パーティーや、デ イナーや、車の中で聴くと「アッ、それは貴 方、あそこのジャパニーズ・レディの所へ 行きなさい、あの人がキット治してくれ ますよ」といつて来院してくれた人達が次々と患者さんを紹介してくれ、今不景気の 風が吹きまくっている中であつて患者さん が途絶えたことはありません。

紹介してくれた人の真心に応えるために も、一生懸命治してあげようと、誠心誠意 を込めて一圧一圧に「母心、圧せば命の泉 湧く」とばかりに真剣にとりこんでおりま す。長年苦しんだ、苦痛を取り除き喜び溢 れた顔を見るの生きがいとして今日も指 圧道に励んでおります。

指圧学校よありがとう！ 浪越先生ありがとう！ 南半球のオーストラリア、メルボルン、 より。 一九八五年一月二十四日



名簿有料発刊の構想

新しい同窓会名簿を発刊して既に三年が立ちました。最初は二年おき発刊の予定でしたが経費が膨大で収入会費とのバランスがとれず、会費の蓄積を待つて今日まで延引してあります。皆様に不便をお掛けしましたことをお詫び致します。

名簿の校正ミス、新住所、移転先き不明者、逝去者等でわかったものは備え付け名簿に朱記しておりますが、可成り訂正箇所が多く改訂版発行が必要になって来ました。

昭和六十年日本指圧専門学校同窓会通常総会のご案内

左記により同窓会総会を開催いたしますのでご出席下さいますようご案内いたします。

昭和六十年三月
日本指圧専門学校同窓会会長
山内貞四郎

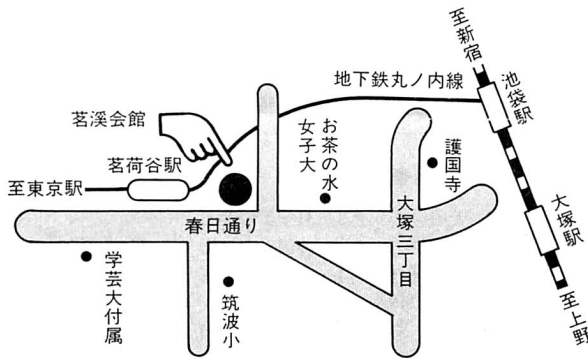
記

- 一、とき 昭和六十年七月七日(日)
開会一〇・〇〇〜三・〇〇
- 一、ところ 茗溪会館
(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅
下車徒歩一分地図は下記)
- 一、内容 総会(午前)
講演「ストレッティング」
日本指圧専門学校副校長
浪越徹先生
懇親会(午後)

- 一、会費 八、〇〇〇円(当日も可)
- 一、申込金 五、〇〇〇円
- 一、申込 同封の振込用紙にて会費前納して頂きますと受付事務混雑が防げますのでご協力の程切

着席式を予定しています。

同窓会通常総会案内図



TEL 03-943-0321

(上段から続)にお願い申し上げます。

同封の申込はがき(切手不要)に出欠を明かにして七月三日までに必着でご投函下さい。申し込み人数にて準備を進めますので。

指合せボウリング倶楽部

私は地域保健活動で高齢化社会を高齢化社会にしないために、中高年の体をホグス運動として、水泳とボウリングを奨めております。

私は66才、日指校入学と同時に始めた、ボウリング歴14年、アベ170、週3回のリーグ戦を楽しんでおります。一緒に、指合せボウリング倶楽部を創りませんか!

左記へご連絡をお待ちしております
〒211 川崎市中原区荻宿四〇番地
電話 〇四四一四二二一四八八二
山口徳蔵(15期)

ゴルフ同好会

昨年夏第10回徳治郎杯(先生寄贈)大優勝カップ取切戦が名門コース霞ヶ関C・Cで挙行され美座時康(24期)先生が猛迫する強豪鈴木豊人(24期)先生をH・D・Cが物をいい3ストローク差で追撃をかわし掌中にした。

11回春の大会は秀麗富士を仰ぎながら富士平原C・Cで快音を放った。次回夏の大会は名門太平洋クラブ御殿場コースで開催予定です。参加希望の方左記へ連絡下さい。連絡先 日本指圧専門学校内 芦原 滋

スキー・テニス同好会

昨年正月にかけて新潟県上越国際スキー場、2月水上大穴スキー場へ。今年参加希望の方9月中旬までに連絡乞う。電話 〇四五一九〇二二六三三

日本指圧専門学校内 幹事 鈴木信彦 木下 誠

編集後記

風薫る五月会報第四号をお届けします。今年度総会が七月に開催されますので案内を兼ねて発送時期を調節した次第です。■「出版記念祝賀会」は大勢の参会者と和やかな楽しい会で、今だに余韻が伝わってくる感じがします。■浪越徳治郎先生は今年十一月三日で満八十歳傘寿のお祝いの会があると聞いています。■特集「恩師近況」では懐かしの、あの頃を思い出しながら紙上でご対面です。諸先生方のお顔は紙面の都合で掲載できませんでした。またの再会を楽しみに——。■「YOKOGAO」はご存知ノ佐々昭三先生ご登場です。御健康をお祈りしています。■同窓会会員名簿訂正表を掲載でき、会報の目的でもある同窓との絆を結ぶ機能を果たすことができました。■初夏を思わせる大型連休「一気」はやめて数日郊外でイイ汗かいてくるつもり。■母校では五月上旬修学旅行、上野公園で青空指圧と——。■母校ありて同窓会、日本指圧協会あり、三位一体の前進が続きますように。■会報編集の重責を再び引継ぐことになりました。同窓皆様のご協力により一層充実した会報にしていきたいと念願しています。今後共宣しくお願い申し上げます。

会報編集委員長 小林秋朝